「伝えたい気持ちが大切」

城南中学校で手話教室

新宮市

新宮市立城南中学校（中田善夫校長、生徒171人）で23日、2年生61人を対象とした手話教室があり、市聴覚障害者協会副会長で手話サークル虹の須川陽一会長が講話した。

総合学習の一環で、同校では2年目の取り組み。手話言語はろう者（聴覚障害者）が操る手指や体の動き、表情を使った視覚的な言語だ。新宮市では昨年の「手話言語条例」制定以降、学校や市立医療センター、サロンなどさまざまな場所で盛んに普及活動が行われている。

教室では須川会長が通訳を通じ、これまでの人生経験について講話。地元にろう者を受け入れる保育所がなく、4歳で親元から離れて県立和歌山ろう学校の寮に入ったこと、一生耳が聞こえないと知ってショックを受けたことなどを語った。

ろう者の働き掛けにより運転免許取得や郵便配達などさまざまな場で合理的配慮が広がっていることにも触れ、点字ブロックの上に自転車を置かないなど自分にできる配慮をするよう促した。

手話のレクチャーでは「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」のあいさつを教え、「ろう者とコミュニケーションを取るには、手話や筆談、ジェスチャー、空書、口話など、さまざまな方法がある。下手でもいいので、伝えたいという気持ちが大切」と呼び掛けた。最後は全員で「ありがとう」の手話で締めくくった。（石田幸子）

須川陽一会長（左）が講話＝23日、新宮市立城南中学校

手話を練習する生徒たち